

| 科 目 | 単 位 (時間) | 担 当 者 | 授業時期 |
|---------|-----------------|---------------------|-------|
| 母性看護学実習 | 2 単位 (90 時間) | 小林康子 (臨床経験 13 年) | 4 年全期 |

【学習目標】

周産期にある対象の特徴を総合的に理解し、母性看護の方法を学ぶとともに、母性看護における看護の役割を学ぶ。

【授業の進め方】

実習 1～2組の母子を受け持ち看護実践していく

- 1 病棟オリエンテーション
- 2 受け持ち母子の情報収集と全体像の把握
- 3 アセスメント
- 4 看護問題の抽出・整理
- 5 個別の看護計画作成・実施
- 6 乳房ケア・母乳育児支援の実際を見学
- 7 集団保健指導見学
- 8 新生児の観察・ケアの見学・実施
- 9 分娩見学、立ち会い（必須ではない）
- 10 外来見学実習
- 11 毎日のテーマカンファレンス
- 12 まとめのカンファレンス
- 13 実習記録・追加学習の提出
- 14 実習自己評価表の提出
- 15 試験

【授業スケジュール】

実習時間 8:30～17:00（昼休憩 1 時間含む） 7.5 時間×12 日（90 時間）

【教科書】

実習内容に関連する教科書

【参考書】

学習内容関連書

【評価方法】

出席時間、実習評価表に基づき評価

| 科 目 | 単 位 (時間) | 担 当 者 | 授業時期 |
|----------|---------------|-------------------|------|
| 小児看護学実習Ⅱ | 2単位 (90時間) | 佐藤 理紗 (臨床経験7年) | 4年全期 |

【学習目標】

- 1 疾患や入院が小児とその家族へ与える影響を理解し、小児とその家族に対する援助を通して小児看護の役割を学ぶ。
- 2 障害をもちながら生活する小児を理解できる。

【授業の進め方】

1 小児病棟実習 患児受持ち制による看護実践

- ① 臨地オリエンテーション
- ② 受け持ち患者の情報収集と整理
- ③ 初期の情報に基づく日常ケアの実施
- ④ 得た情報をもとに患児アセスメント
- ⑤ 看護問題の抽出・整理
- ⑥ 個別の看護計画作成・実施
- ⑦ まとめのカンファレンス(最終日)
- ⑧ 実習記録の提出
- ⑨ 実習自己評価表の提出

2 重症心身障害児施設実習

- ① 臨地オリエンテーション
- ② 日常ケアの見学・コミュニケーション
- ③ まとめのカンファレンス(最終日)
- ④ 実習記録の提出

【授業スケジュール】

1 小児病棟実習

実習時間 8:30～17:00 (昼休憩1時間含む) 7.5時間×10日 (75時間)

2 重症心身障害者施設実習

実習時間 8:30～17:00 (昼休憩1時間含む) 7.5時間×2日 (15時間)

【教科書】

実習内容に関連する教科書

【参考書】

学習内容関連書

【評価方法】

出席時間、実習評価表に基づき評価

| 科 目 | 単 位 (時間) | 担 当 者 | 授業時期 |
|----------|---------------|-------------------|------|
| 成人看護学実習Ⅲ | 2単位 (90時間) | 町田 久美 (臨床経験5年) | 4年全期 |

【学習目標】

周手術期、または生体侵襲の大きい検査治療を受ける対象を理解し、合併症予防および回復促進のための看護実践ができる基礎的能力を養う。

【授業の進め方】

手術を受ける患者1～2名を受け持ち、患者への関わりを通して必要なニーズを把握し、回復に向けての援助を行う。学生自身が看護実践の中で気付いたり、感じ、考えたりしたことは、実習記録、カンファレンスで言語化し、グループメンバーとディスカッションできるようにする。

【授業スケジュール】

患者受持ち制による看護実践

- 1 臨地オリエンテーション
- 2 受け持ち患者の情報収集、整理
- 3 日常生活援助・看護技術の実施
- 4 アセスメント項目から関連図作成
- 5 看護問題の抽出
- 6 看護計画立案、実施、評価

【教科書】

系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論 医学書院
その他、実習内容に関連する教科書

【参考書】

学習内容関連書

【評価方法】

出席時間、評価表に基づき評価

| 科 目 | 単 位 (時間) | 担 当 者 | 授業時期 |
|--------|-----------------|---------------------|-------|
| 在宅看護実習 | 2 単位 (90 時間) | 宮本千絵 (臨床経験 12 年) | 4 年全期 |

【学習目標】

在宅で療養している人への訪問看護を通して、療養している人と家族に対する看護の役割を理解する。また、地域で生活している人々の健康増進・疾病予防について理解する。

【実習の進め方】

1 訪問看護

- ① 訪問前に訪問の目的や援助計画、療養者の情報収集をする
- ② 訪問看護師（スタッフ）に同行し、療養者宅を訪問する
- ③ 療養者の状況に応じて指導者と共に援助しながら、在宅看護の実際を知る
- ④ 実際の援助は、指導者と一緒に行うまたは見学とする
- ⑤ 実習期間中に2～3回訪問できる療養者を「受け持ち療養者」とする
- ⑥ 記録の整理をすることにより、療養者の看護上の問題を抽出する
- ⑦ 実習中間と実習最終日に施設ごとで、1時間程度のカンファレンスを行う

2 地域看護

- ① 実習初日にオリエンテーション（一日の流れ、事業の概要、留意点など）
- ② 地域における保健活動に参加する
- ③ 対象者の状況に応じて、担当者と共に援助に参加する
- ④ グループメンバー間で体験の共有や意見交換を行う
- ⑤ 実習最終日にグループ全体で、1時間程度のカンファレンスを行う

【実習スケジュール】

1 訪問看護実習

実習時間 8:30～17:00（昼休憩1時間含む） 7.5時間×7日（52.5時間）
訪問看護ステーション7日（52.5時間）

2 地域看護実習

実習時間 8:30～17:00（昼休憩1時間含む） 7.5時間×4日（30時間）
保健センター4日（30時間）

【教科書】

実習内容に関連する教科書

【参考書】

学習内容関連書

【評価方法】

出席時間、課題レポート、実習評価表に基づき評価

| 科 目 | 単 位 (時間) | 担 当 者 | 授業時期 |
|------|-----------------|-------|-------|
| 統合実習 | 2 単位 (90 時間) | 全専任教員 | 4 年後期 |

【学習目標】

管理実習、夜間実習、複数患者の受け持ちを体験し、看護チームの一員としての知識・技術・態度を統合した看護実践能力を養う

実習目標

- 1 看護管理の実際を知ることにより保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能が理解できる。
- 2 夜間実習の体験を通して対象者の理解を深め、看護の役割を知る。
- 3 複数の対象を受け持ち、チーム看護が実践できる。
- 4 これまでの学習を振り返り、自己の看護観を明確にする。

【授業の進め方】

実習 複数患者受け持ちによる看護実践

- 1 臨地オリエンテーション
- 2 臨地オリエンテーション
- 3 受け持ち患者の情報収集と整理
- 4 初期の情報に基づく日常ケアの実施
- 5 得た情報をもとに患者アセスメント
- 6 看護問題の抽出・整理
- 7 個別の看護計画作成・実施
- 8 複数患者の受け持ち
- 9 管理実習
- 10 夜勤実習
- 11 学内実習は、カンファレンスを中心に、各学生の進度に合わせた個別指導
- 12 まとめのカンファレンス
- 13 実習振り返り
- 14 実習記録の提出
- 15 実習自己評価表の提出

【授業スケジュール】

実習時間 8:30～17:00 (昼休憩 1 時間含む) 7.5 時間×12 日 (90 時間)

【教科書】

実習内容に関連する教科書

【参考書】

学習内容関連書

【評価方法】

出席日数、実習評価表に基づき評価